

高齢者等の肺炎球菌感染症予防接種についての説明書

1 病気の概要

肺炎による死亡者の95%以上が、65歳以上の方です。高齢者の肺炎の原因菌で一番多いものが肺炎球菌です。肺炎球菌とは、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎などの原因となる細菌で、健康な方の鼻、のど、上気道にも存在し、体力や免疫力が低下すると、肺炎などを発症することがあります。

2 予防接種の有効性

高齢者の肺炎の原因の中で、最も多い肺炎球菌の感染を予防するのが「23価肺炎球菌英膜ポリサッカライドワクチン」です。肺炎球菌には90種類以上の血清型があり、平成26年10月から定期接種で使用されている本ワクチンは、そのうち23種類に対して免疫を付けることができ、感染を予防し、重症化を防ぐことが期待できます。ただし、肺炎の原因は肺炎球菌だけではないため、すべての肺炎を予防できるわけではありません。接種後、免疫ができるまで約3週間、効果は少なくとも5年間持続します。

3 予防接種の副反応

- ・ 注射部位の発赤、腫脹、疼痛、熱感が5%以上認められています。筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱もありますが、いずれも軽度で2～3日で消失します。
- ・ 稀に報告される重大な副反応としては、アナフィラキシー様反応、血小板減少、知覚異常、ギラン・バレー症候群等の急性神経根障害、蜂巣炎・蜂巣炎様反応、注射部位壊死、注射部位潰瘍等が報告されています。

4 予防接種を受けるにあたっての注意点

(1) 肺炎球菌ワクチン接種歴の確認

- ・ 過去に肺炎球菌ワクチン（23価肺炎球菌英膜ポリサッカライド）を接種した方、旭川市外に住民登録がある方は対象外です。
- ・ 5年以内の再接種は、注射部位の腫れや痛みなどが強く、高い頻度で出るとの報告があります。接種歴は必ず御確認ください。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ・ 明らかに発熱のある方（一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します。）
- ・ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
急性の病気で薬を飲む必要があるような方は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。
- ・ ワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな方
アナフィラキシーは、通常接種後30分以内に起きるひどいアレルギー反応です。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。
- ・ その他、医師が不適当な状態と判断した場合、上記の各項目に入らなくても、医師が接種不適当と判断した時は接種できません。

(3) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない方

- ・ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方
- ・ 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
(裏面へ続く)

- ・ 過去にけいれんの既往のある方
- ・ 過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ・ ワクチンに含まれる成分によって、アレルギーを呈するおそれのある方

(4) その他

- ・ この予防接種は、接種を受けることの法律的な義務はなく、御本人が希望する場合にのみ接種を行います。
- ・ 気になることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に、担当の医師、看護師、保健所に質問しましょう。十分に納得できない場合は接種をお控えください。
- ・ 予診票は、接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には接種を受ける御本人が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

5 予防接種を受けた後の注意事項

(1) 予防接種を受けた後の行動

- ・ 予防接種を受けた後24時間は、健康状態の変化に注意してください。特に、接種直後の30分間は、急激な健康状態の変化が起こることがありますので、医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ・ 接種当日は普段通りの生活をしてかまいませんが、接種部位を清潔に保ち、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ・ 入浴は差し支えありませんが、注射した部分を強くこすることはやめましょう。
- ・ 接種後に交付される「接種済証」を保管し、接種時期が分かるようにしておきましょう。（このワクチンは、少なくとも5年間は効果が持続するとされており、過去に接種した方が5年以内に再接種すると、注射部位の痛みや腫れなどの副反応が強く高い頻度で出現すると報告されています。）

(2) 副反応が起こった場合

- ・ 予防接種後、まれに副反応が起こることがあると同時に、他の病気がたまたま重なってあらわれることもあります。接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱等があらわれたら、医師（医療機関）の診察を受けてください。本予防接種によって重篤な副反応が発生した場合は、医療費や医療手当等、予防接種法による一定の給付を受けられる場合があります。

6 他のワクチンとの接種間隔

- ・ 他のワクチンと同時に接種することは可能ですが、かかりつけ医にご相談ください。

【問合せ先】
旭川市保健所保健予防課保健予防係
電話 0166-25-6237